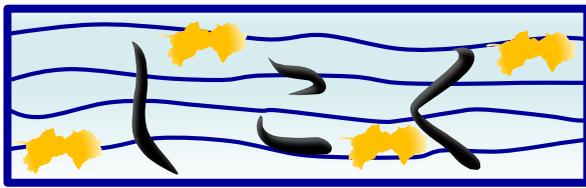


主な記事

- 旅団演習 (1-2面)
- 派遣海賊対処行動支援隊要員帰国行事 (3面)
- 中隊長等集合訓練 (3面)
- 四国地区殉職隊員追悼行事 (3面)
- 旅団最先任上級曹長交代行事 (4面)



旅団長統率方針「任務必成」
旅団長要望事項「プロであれ」



陸上自衛隊第14旅団広報紙

発行所：第14旅団司令部総務課広報班
住所：香川県善通寺市南町2丁目1-1
電話：0877-62-2311 (内2256・2257)
メールアドレス：pr-14b-ma@inet.gsdf.mod.go.jp

令和3年(2021年)8・9・10月 第169号

部隊の能力を最大限発揮

—第15即応機動連隊による作戦統制と、各部隊の積極的なフォローシップ—

旅団演習を実施 5個部隊が受閲

第14旅団(旅団長 遠藤充陸将補)は、前段9月中旬から10月上旬までの間、霧島演習場(宮崎県)、福山演習場(鹿児島県)、国分台演習場(香川県)及び各所在駐屯地、後段10月中旬に、あいな野演習場(滋賀県)において「令和3年度旅団演習」を実施した。

前段は、約30年ぶりとなる令和3年度陸上自衛隊演習の場を活用して旅団全部隊を動員し、出動準備に係る各種補給品の受領・積載、ミッションリハーサルとして小火器射撃訓練・通信縮小系訓練及び西方地域への機動展開を実施し、旅団全体の作戦遂行能力の向上及び各種計画の実効性向上を図った。後段では、課目「島嶼における部隊の行動」について、第15即応機動連隊、第14後方支援隊、第14施設隊、第14通信隊及び第14特殊武器防護隊の5個部隊に対し訓練検閲を実施し、教育訓練の成果を評価するとともに、その練度向上を促した。



海上機動による九州への上陸



ミッションリハーサルを行う第14旅団隊員

本訓練検閲を実施するにあたり統裁官である旅団長は、9月15日、受閲部隊に対し、第15即応機動連隊「適切な作戦統制による戦闘力の組織化」、第14後方支援隊「Sustainment(後方支援)なくして戦勝なし」、第14施設隊「作戦構想に基づく火力と障害の連携」、第14通信隊「指揮の命脈を構成・運営」、第14特殊武器防護隊「被害を局限し戦闘を継続させる」と訓示し、状況を開始した。

第15即応機動連隊 第15即応機動連隊は、機動展開間の部隊現況把握及び状況の変化に応ずる戦闘指導を実施し、島内の行動では、先遣中隊による重要防護施設等の防護、先遣された他部隊との調整、1次展開部隊を基本とした独立した行動、協同部隊の防護と並行した防護準備及び総合戦闘力の発揮を実施した。

演習間の指揮官の交代に伴い、前段を、品川淳二二等陸佐、後段を、福井謙一第14後方支援隊(隊長 吉元雄一 一等陸佐) 第14後方支援隊は、集成



旅団内システム通信構成を行う 第14通信隊



重要防護施設等の防護を行う 第15即応機動連隊

補給隊と連携した事前集積・部隊交付、警戒自衛と並行した防護準備及び防護準備間・戦闘間の兵站・衛生支援を実施した。 第14施設隊(隊長 澤水隆一 二等陸佐) 第14施設隊は、警戒自衛と並行した防護準備、築城資材を最大限活用した陣地構築、障害構成、機動路整備、戦闘間の施設支援及び対ヘリボン戦闘を実施した。 第14通信隊(隊長 西山仁基 二等陸佐) 第14通信隊は、出動準備間に縮小系訓練による通信要領の徹底を行い、機動間の旅団システム通信の維持、離島の特性に応じた旅団内システム通信組織の構成・維持、警戒自衛と並行した防護準備及びサイバー・電磁波攻撃対処を実施した。 第14特殊武器防護隊(隊長 新美賢一 三等陸佐) 第14特殊武器防護隊は、警戒自衛と並行した防護準備、防護準備間の化学・生物攻撃対処及び防護戦闘間の化学攻撃対処を実施した。 本演習では、新型コロナウイルス感染症対策として、方面区を跨いで移動する隊員に対して、PCR検査を実施する等、徹底した感染対策のもと実施された。 統裁官は、検閲終了後、受閲部隊に対し講評を行い、今後の更なる進歩向上を促し、令和3年度旅団演習を終了した。

旅団演習 任務完遂

第15即応機動連隊
 第14後方支援隊
 第14施設隊
 第14通信隊
 第14特殊武器防護隊



対機甲戦闘を行う普通科隊員(第15即応機動連隊)



機械力と人的戦闘力を最大限活用した構築(第14施設隊)



大量患者に対応する衛生隊員(第14後方支援隊)



化学攻撃による患者除染(第14特殊武器防護隊)



サイバー攻撃対処を行う隊員(第14通信隊)

旅団訓練検閲優秀隊員紹介

■第15即応機動連隊 本部管理中隊

第1普通科中隊

第2普通科中隊

第3普通科中隊

機動戦闘車隊本部付隊

第1機動戦闘車中隊

第2機動戦闘車中隊

火力支援中隊

第14後方支援隊

本部付隊

第1整備中隊

第2整備中隊

即応機動直接支援中隊

補給中隊

輸送隊

衛生隊

■第14施設隊

3等陸曹

2等陸曹

2等陸曹

1等陸尉

3等陸曹

3等陸曹

3等陸曹

3等陸曹

3等陸曹

1等陸曹

1等陸曹

2等陸曹

寄江 勇希

北村 修啓

種村 勝

宮本 慎介

宮本 健

宮本 隆之

東川 慶一

時田 智和

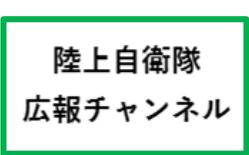
竹内 一史

宮岡 智和

陸上自衛隊広報チャンネル
(YouTube)に
「自衛隊式感染症予防」
を掲載中!



陸上自衛隊 第14旅団
逐次発信中!





『無事に任務を完遂』

国際貢献

第14旅団派遣隊員が帰国

―アデン湾の海賊対処行動支援を終え―

第14旅団（旅団長 遠藤 充陸将補）は、令和3年8月17日、高知駐屯地においてソマリア沖・アデン湾における海賊対処のため約半年間の任務を終えた隊員に対し、「派遣海賊対処行動支援隊（第15次要員）帰国行事」を実施した。

帰国行事には、高知県の各協力団体の長並びに方面総監部幕僚長の参列をはじめ、方面総監部総務部長、各派遣元部隊長及び派遣隊員の家族等の臨席の下、行われた。

警衛隊長（大川内靖博 3等陸佐）の帰国報告を受けた遠藤旅団長は、「今回の経験で得られた自信と誇りを今後も持ち続け、現地で

得た教訓を、留守を守った仲間たちと共有し、作戦遂行能力の更なる向上を図り、国民の皆様の期待に応え得る存在であつてほしい」と労をねぎらった。警衛隊長は派遣間の支援等に謝意を表すとともに、「派遣期間中、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、また酷暑の中、老朽化した施設の修繕等、淡々と任務を完遂しました。半年間の経験を今後の部隊勤務に生かしたい」とあいさつした。

国歌吹奏



執行者式辞



帰国行事全景

追悼行事

「四国地区殉職隊員追悼行事」

哀悼の誠を捧ぐ

第14旅団は、9月11日、善通寺駐屯地第3営舎地区（香川県）において令和3年度四国地区殉職隊員追悼行事を挙行し、今年度新たに一柱の御霊を奉納して、任務遂行中に殉職した五十一年の御霊に哀悼の意を表した。

追悼行事は、5遺族5名をはじめ、隷下各部隊長及び地方協力本部長等が参列し、旅団長による追悼の辞、参列者による献花、第14音楽隊による追悼演奏及

び儀じよう隊による弔銃並びにご遺族代表挨拶が粛々と行われた。

旅団長は、追悼の辞で殉職隊員を偲ぶとともに、「強い使命感を持って、全隊員が更に職務に邁進することを約束します。」と、改めて五十一柱の御霊に誓った。

警衛隊長挨拶



中隊長等集合訓練

中隊長等としての識能の向上を図る

第14旅団は、8月19日から20日までの間、善通寺駐屯地において中隊長等としての識能の向上を図る目的で、令和3年度後期中隊長等集合訓練を実施した。

本訓練は、連隊長等の中隊長等、中隊長の幹部自衛官及び3等陸佐以下の直轄部隊長等を対象に、19日、20日の2日、基づくグループ討議を行い、20日には、旅団長訓話に引き続き司令官各部課等による教育を行った。

訓練に参加した中隊長は「中隊長としての識能向上、各中隊長等間の意見交換、問題認識の共有及び旅



追悼の辞を述べる旅団長



弔銃を行う儀じよう隊（第15即応機動連隊）



グループ討議を行う参加者

団の各種施策に関する理解を深めることができた。今後中隊長として、自らが実践する姿を見せ、日々自らの考えを部隊・隊員に伝えていきたい」と話した。



旅団最先任上級曹長 交代



第14旅団は、8月26日、善通寺駐屯地(香川県)において旅団最先任上級曹長交代行事を実施した。



旅団長から上級曹長識別章を授与される新旅団最先任上級曹長

第7代旅団最先任上級曹長 木村准尉離任

前旅団最先任上級曹長兼善通寺駐屯地最先任上級曹長 木村庄司准尉は、平成30年8月1日付で着任し、3年間にわたり旅団長を積極的に補佐し、准曹士の育成に多大な貢献をした。

木村准尉は、10月27日付で3等陸尉に特別昇任され、定年退官された。同日、退官行事において駐屯地所在隊員に見送られ、善通寺駐屯地を後にした。

第8代旅団最先任上級曹長 原准尉着任

8月26日、第8代旅団最先任上級曹長兼善通寺駐屯地最先任上級曹長に原清悟准尉が着任した。



着任の挨拶を述べる最先任上級曹長

「皆とともに考え、歩み、成長し、常に自分の背中を見せ続けていく」

原准尉は、第50普通科連隊最先任上級曹長から上番し、交代行事において「指揮官の補佐者として、旅団長の思いや意思、また隊員の思いや現状を伝える旅団のあるべき姿を具現化できるような考え行動していく。また、准曹士の長として、皆とともに考え、歩み、成長し、常に自分の背中を見せ続けていく」と職務に邁進する決意を述べた。



新旧旅団最先任上級曹長(8代目 原准尉…右) 7代目 木村3尉…左) 固く握手を交わす



隊員に見送られる木村3尉

第15即応機動連隊

連隊検閲を受閲

作戦名「アリ地獄ディフェンス作戦」
― 踏み込んだら最後、敵を蹴散らせ、任務を完遂せよ ―

第15即応機動連隊(連隊長 福井謙1等陸佐)は、あいば野演習場(滋賀県)において、旅団演習(後段)に参加し、連隊訓練検閲を受閲した。

「絶対に負けられない戦いがここにはある。我々は陸自の第一線連隊である。そのことを銘記せよ。」という連隊長の言葉を全隊員が胸に刻み、要望事項である「ベストを尽くせ」「力を結集せよ」、「安全管理に万全を期せ」を具現化すべく、作戦名※「アリ地獄ディフェンス作戦」を展開し、敵の脅威下における築城、重要防護施設及び領域横断作戦に係る部隊との連携、敵の対上陸阻止の一連の戦闘行動を実施した。

何なる任務も完遂できる部隊の育成に尽力する。



受閲を前に訓示する福井連隊長(隊容検査)

連隊は、戦間、連隊長の指揮の下、各級指揮官の柔軟かつ自発的な戦闘指揮、情報と火力の連携による発見・即射撃による対人・対機甲戦闘、積極かつ柔軟な後方支援等の力を結集し、敵の侵入を阻止し、任務を完遂した。

※アリ地獄ディフェンスとは、「踏み込んだが最後、絶対に抜け出せないアリ地獄のようにあいつ野島を變貌させ、アリ地獄に落ちたアリのごとく、敵を蹴散らすこと」



掩蓋陣地に進入するMCV



対機甲戦闘を行う隊員

新隊員、35kmの徒步行進訓練に挑む！

第50普通科連隊



力強く行進を行う新隊員

第50普通科連隊(連隊長 溝口光章1等陸佐)は、8月からスタートした、新隊員特技課程及び一般陸曹候補生課程後期教育(教育隊長 村上豊昭3等陸佐)59名が、9月22日夜から23日昼にかけて、高知演習場内において35km徒步行進訓練を実施した。

この際、コロナ禍であることを踏まえ、熱中症対策と感染防止の観点から、各人の間隔及びマスクの着脱を統制して行い、安全・健康管理に万全を期して訓練を実施した。

隊員達は、鉄帽、装具及び小銃の他、約10kgの背のうを装着し、体力・気力をふりしぼり一歩一歩力強く行進した。

行進が進むにつれ、疲労から辛い表情を見せる隊員もいたが、同期で励ましあうことで、起伏が連続する過酷な経路を約13時間かけて完歩することができ、訓練目的を達成した。

新隊員は、体的及び精神的に更に成長し、完歩後の表情には逞しさが増していったことは何よりの成果であった。

部外行事を支援

中部方面特科隊

「歩くことで得られる感動がある」

自衛隊への理解と親近感を獲得

警戒しつつ体力を回復する新隊員



市内を行進する参加者と隊員

中部方面特科隊(隊長 服部真之介1等陸佐)は、10月16日夕から17日朝にかけて、松山市青少年育成市民会議が主催する「オーバーナイトハイキング2021」を支援し、自衛隊に対する理解と親近感の醸成を図った。

当該行事は、青少年を対象に毎年10月頃、松山市内40kmを一晩かけて歩くイベントであり、本年度は最年少9歳から最高齢55歳までの市民136名が参加し、自衛隊からは、特科隊22名を含む松山駐屯地所在地部隊39名が支援した。

行進開始直後は、あいにくの雨や自衛官と初めて話す人が大半ということもあ

り会話も少なかつたものの、中盤を迎えるころには参加者と隊員のコミュニケーションも増え、自衛官に対する緊張は徐々に和らいできた。

30kmを超えるころには、疲労や足の痛みもピークを迎え、寒さに耐えながら完歩を目指す参加者を、最後まで完歩できるよう激励と安全に留意しつつ支援した。

一昼夜にわたる総距離40kmを完歩した参加者からは、「自衛隊の方が一緒にいて心強かった」、「最後の方、心が折れた自分をずっと何度も励ましてくれた」、「きつい坂を子供の手を引いて上がってくれ、子供は愚痴を言わず最後まで頑張ってくれました。自衛隊の方がいかに大変か来なかったかもしれない、ありがとうございました。」と感謝の言葉をいただきました。

隊員も達成感、良さを共有し、「年齢の幅が広いのに、年齢の異なる方と交流するの、良い経験になりました。」と感想を述べ、声援をいただきました。

市内を行進する参加者と隊員

新隊員特技課程「装輪車整備」及び

第14後方支援隊

一般陸曹候補生課程後期「装輪車整備」修了式



被教育者による野外整備

第14後方支援隊(隊長 吉元雄一1等陸佐)は、9月10日、善通寺駐屯地(香川県)において、令和3年度新隊員特技課程「装輪車整備」及び一般陸曹候補生課程後期「装輪車整備」修了式を挙

本教育は、本年4月に入隊して約3ヶ月間の基本教育を修了した隊員に対し、装輪車整備として必要な知識及び技能を修得させることを目的に実施した。

被教育者7名の教育期間を通じて、装輪車整備

備の基礎的知識や技術を学ぶとともに自衛官として必要な資質を養い、1名も欠けることなく修了式を迎え、同期を代表して菊地歩2等陸士が力強く堂々と申告を実施した。

修了式の式辞において、後方支援隊長は「今後の部隊勤務では命ぜられた事項を確実に実行し、本教育で修得した事項を基盤として、更なる知識・技術の錬磨に努め、失敗を恐れず日々の業務に取り組みたい。」と言葉を送った。

同期とともに訓練を乗り越えた隊員は、それぞれの中隊等へ配置され、第14後方支援隊の一員として勤務した。



代表して申告を行う菊地2士

第2次 ドアガン射撃訓練を実施

第14飛行隊

第14飛行隊(隊長 高橋慎一郎、二等陸佐)は、7月23日から8月1日までの間、佐多射撃場(鹿児島県)において、令和3年度第2次ドアガン射撃訓練を実施した。

本訓練は、旅団が計画するホバリアング及び移動間におけるヘリコプターからの機関銃射撃訓練を飛行隊が担

各係陸曹による業務隊への移管



第14偵察隊

「応急出動訓練」

第14偵察隊(隊長 今村正文、二等陸佐)は、9月15日から20日までの間、善通寺駐屯地(香川県)において、応急出動訓練を実施した。

15日から17日、隊舎内において各物品等を集積し、庁隊舎の移管準備を実施した。隊の物品は、各係陸曹が主となり業務隊に移管する廃棄物品等に区分し庁隊舎移管の準備を完了した。本訓練を経験したことのある隊員は少数であったが、日々準備状況を共有・調整し、先行的な業務の実施、事前教育及び認識の統一等により円滑・確実に出動準備を完了させ、18日に、業務隊への移管を実施した。

18日及び19日、各係による法令教育、メンタルヘルス教育及び情勢教育等を行い、隊員全体の認識の徹底及び知識を向上させた。

20日、善通寺駐屯地グラウンドにおいて、隊の準備状況を確認し、出動準備を完了した。



採点を行う第15即応機動連隊の隊員



ヘリコプターから射撃を行う隊員



射撃前の安全点検を行う隊員

近SAM用掩蓋俺壕(ソイルアーマー)



第14施設隊

「一歩前へ」

第14施設隊(隊長 澤水隆一、二等陸佐)は、10月中旬、あいば野演習場(滋賀県)において隊訓練検閲を受閲した。

受閲にあたり、隊長要望事項「一歩前へ」とし、「施設技術の最大限の発揮」「綿密な協同連携」「安全管理」の細部3点を要望した。

施設隊は、第1次展開部隊となり、機動展開を開始し、あいば野演習場へ集結後、旅団の全般支援として、旅団指揮所、旅団長執務室及び近SAM用陣地の構築、大規模地雷原及びヘリボン障害の構成を実施した。

訓練所感



第14施設隊 第1施設小隊 小隊陸曹 2曹 羽立 延史



近SAM用ソイルアーマーの掩蓋俺壕構築(本人:写真右)



第14施設隊 渡河器材小隊 架設班長 2曹 福岡 徹



U字杭及び有刺鉄線によるヘリボン障害の構成

隊訓練検閲に臨むにあたり、過去の練成訓練の反省として、特に小隊内の認識共有が不十分だと感じました。そのため、ジオラマ等を作成して、人員及び器材運用等について、小隊長、分隊長及び器材班長と納得いくまで議論し、検閲では小隊内の意思疎通を十分図ることができ任務達成することができました。

降雨と寒さの中での作業を頑張ってくれた小隊のみんなに感謝します。

今後も第14施設隊の伝統を継承し、上下左右を思い、更に自分を錬磨していきます。

隊訓練検閲で架設班長として参加しました。これまでの訓練での反省点を踏まえ、小隊一丸となり任務達成することができました。

ヘリボン障害の構成、旅団長執務室及び近SAM用露天掩体構築等の多様な任務、特に初めて小隊として実施したソイルアーマーによる陣地も無事構築出来たのは、小隊みんなの支えがあったことだと心から思っています。

評価、指導していただいた事項を真摯に受け止めて、これからも第14施設隊の練度向上に尽力していきます。

第14通信隊

第14通信隊(隊長 西山仁基2等陸佐)は、10月中旬、あいはら野演習場において令和3年度旅団演習に参加し、訓練検閲を受閲した。

隊長要望事項「一致団結」「任務必成」「安全管理」を具現すべく、これまでの練成成果を発揮した。

通信隊訓練検閲を受閲



旅団の行動を記録撮影する写真班

出動準備間から全般を通じて民間通信網(LTE)を活用した機動間のシステム通信組織及び防衛情報基盤(DI)を使用した野外システム通信組織の構成及び各種バックアップ回線の構成確認等を円滑に実施した。

指揮の命脈たるシステム通信組織を構成・維持・運営するとともに、通信電子防護及び電磁波管理を積極的に行い、緊要な時期と場所において実施した。また、行動記録の撮影のため、旅団及び隷下部隊の各種行動計画を収集・調整し、綿密な撮影計画を作成し、行動記録として必要な旅団の各種行動を昼夜を問わず、もれなく映像として記録し、旅団の記録確保に寄与した。

隊は今後、西山隊長を核心として、即動し所命任務を必ず達成できる部隊を目指す。さらなる訓練に精励する。

隊員紹介

隊として表彰した6名の隊員のうち新進気鋭の若者2名を紹介します。

優秀隊員

陸士長 天真 星矢
作戦間、積極・真摯に任務に邁進した。有線障害が発生した際には1番手として積極的に班長の指揮下に入り迅速に障害探求する等、旅団のシステム通信組織の維持に努めた。

特別賞

1等陸士 川井 董
令和3年度旅団演習において、「通信隊のシンボルマーク」を作成し、部隊の士気高揚に大きく貢献した。



天真士長

川井1士

第14高射特科隊

「旅団統制演習場等秋季整備」
第14高射特科隊(隊長 富高英和2等陸佐)は、9月6日から7日及び10月4日から6日までの間、小野演習場(愛媛県)において令和3年度旅団統制演習場等秋季整備に参加した。

本演習場整備は、旅団が計画する演習場等の定期整備であり、隊は後方幹部後藤直樹2等陸尉を主務とし、小野演習場及び小野訓練場の内幹線道路及び側溝の除草、小野射場の停弾提の廃弾回収及び整備を実施した。



除草作業を行う隊員

施し、小野演習場等の機能及び安全性の維持・向上、並びに環境保全に寄与することが出来た。

第14特殊武器防護隊

更なる能力向上を図る

第14特殊武器防護隊(隊長 新美賢一3等陸佐)は、8月31日から9月3日までの間、善通寺駐屯地において、第14旅団が実施する令和3年度第2回旅団システム通信訓練に参加した。

本訓練では、機動展開に必要なシステム通信組織を構成し、GPS位置情報の位置情報自動更新によるリアルタイムの共有要領、システム通信組織構成後の各種障害への対応などを演練し、隊のシステム通信組織の開設・運営能力の向上を図った。

隊員紹介



第14特殊武器防護隊3等陸曹 徳本 友美

令和3年度旅団第2回システム通信訓練に参加した徳本3曹を紹介します。

平素、人事・給養陸曹として勤務していますが、本訓練では保有する通信特技を発揮し、無線通信士として通信所の開設・運営等を担当しました。

機動旅団に改編以降、隊には、最新の装備品等が充てられ、更新され、旅団計画等の訓練に参加し、取扱い要領と運用方法を確認し、練度を積み上げています。

また、器材取扱い要領の普及を目的に、業務の傍ら通信特技保有者を集め、普

第14旅団司令部付隊

部隊紹介

「第2科長等集合訓練」



第14旅団司令部付隊陸曹長 北山 和也

私は、旅団司令部第2部 総括陸曹として勤務している北山曹長です。

今回は8月に実施した「第2科長等集合訓練」について、紹介します。

目的は、情報業務従事者に対し、必要な知識を付与して、円滑な業務の資となることと、情報管理規則等に関する情報の共有・徹底を図ることです。「情報管理」を疎かにする組織は、いくら円滑な「情報業務」を行っていても、情報漏洩の恐れがあるとみなされ、機微な情報は提供されなくなることになりかねません。私は、訓練資料の作成及び取りまとめを担当しました。例年3月に実施される陸自規則改正が7月に伴う処置と訓練準備を同時並行的に行う状況でしたので日々、訓練に間に合うのかと自問し、焦りを覚えました。しかし、関係者各位の積極的な御支援・御協力のおかげで、つぎがなくやり遂げることができました。

今後も、旅団長の要望事項である「プロであれ」を具現するため、情報管理のプロとしての矜持をもって「油断せず」老骨に鞭打って、「情報管理道」を日々精進する所存です。

情報業務従事者に対し教育を行う2部



情報処理業務を行う徳本3曹

最後に、必通の信念をもって、各部隊へNBC通報等を伝え、旅団の作戦に最大限寄与できるように引き続き日々の訓練に精進して参ります。

人事往来

転入



第15即応機動連隊長
(教育訓練研究本部企画調整官)

1等陸佐 福井 謙

転出



東部方面総監部法務官
(第15即応機動連隊長)

1等陸佐 品川 淳二

令和3年9月30日付

部内・外表彰

部内

■第75期陸曹基礎英語課程教育

「第4陸曹教育隊長賞」

第15即応機動連隊第2普通科中隊

3等陸曹 永末 泰志

■第139期2次陸曹候補生課程

「第4陸曹教育隊長賞」

第15即応機動連隊第2普通科中隊

陸士長 久津間 光希

「第4陸曹教育中隊長賞」

第14通信隊

陸士長 真鍋 恵太

■第8期生徒陸曹候補生課程(後期)

「高射学校長賞」

第14高射特科隊

3等陸曹 島田 颯

「高射火器(B)」

■第244期上級陸曹特技課程「部隊化学」

「化学学校長賞」

第50普通科連隊第1中隊

3等陸曹 阿津 靖

■第52期初級陸曹特技課程(野戦砲情報)

「教育課長賞」

第15即応機動連隊火力支援中隊

3等陸曹 関 宏晃

■第23期上級格闘指導官課程

「格闘・武道班長賞」

中部方面特科隊本部管理中隊

3等陸曹 丸山 拓海

■隊員自主募集の功績

「募集功労賞」東部方面総監

第14音楽隊

陸士長 環 真菜

部外

■第91回坦石ソフトテニス大会(35歳以上)

ダブルスの部

優勝

第15即応機動連隊火力支援中隊

2等陸曹 岡田 隆幸

■第24回「長江杯」国際音楽コンクール

(管楽器部門)

一般の部A 第6位(入賞)

第14音楽隊

3等陸曹 有水 仁美



らっぱ手のための ワンポイントレッスン♪

第14音楽隊

vol.8

今回は「音高を変えるコツ」について話したいと思います。
信号らっぱで音高を変える際、息の量、スピード、圧力、そして方向性が考えられますが、今回は、息の量とスピードについて話したいと思います。

皆さんは高ソを吹奏する際、力任せで吹奏していませんか。その吹奏方法では、音は鳴っていてもクラクションの様な音しか鳴りません。

低ソのような低い音は息の量がたくさん要ります。高い音に行くにつれて、息の量は少なくなってきますが、その代わりに息のスピードが必要になるので、舌を使ってコントロールしなければなりません。「ア、エ、イ、ヒ」と言ってみてください。舌の中央部分がだんだん上がっていき口内が狭くなるのが実感出来たと思います。これを利用して息のスピードを変えます。ホースの先端を掴んだら水が細く勢いよく出ると同じです。これをイメージしてリップスラーなどを練習されてみてはどうでしょうか。

次に音楽隊の近況についてです。

9月4日に徳島県の阿南市情報文化センターにおいて「あなんオータムコンサート」を行いました。

プログラム前半の最後に、ロバート・W・スミスの「Song of Sailor and Sea」を演奏しました。直訳通り「海の男の歌(船乗り)」がテーマになった曲です。なんとこの曲、演奏途中で鎖を使用します。船が鎖を落とすが如く、ステージ上で打楽器奏者が木の板に鎖を打ち付けるのです。(写真左端)会場で聴いていた方は、大海原へ突き進んでいく船乗り達の力強い雰囲気、視覚からでも感じられたのではないのでしょうか。まさかと思うものが、楽器に変身してしまう事はよくあります。

今後も注目して見て下さい。



隊員投稿

「新たな勤務地で」

第14後方支援隊第1整備中隊(徳島)

3等陸曹 井上 大機

2等陸曹 奈央(妻)

2020年1月に、私たち夫婦は結婚しました。

妻もまた自衛官であり、入籍した当初、妻はちょうど臨床検査技師課程に入校中でした。同年3月、教育



修了に伴い、徳島駐屯地への赴任が決まり、横須賀にある武山駐屯地で勤務していた自分とは別居生活となりました。新型コロナウイルス感染症が流行し始めた時期でもあり、中々会うことが厳しい状況が続きました。この夏の異動で自分も徳島駐屯地への赴任が決まり、晴れて同居生活を始めることができました。

今回の異動で配慮してくださった前の職場や、受け入れてくださった第14後方支援隊の方々には感謝の念が絶えません。これから私たち夫婦の新たな生活が始まりますが、この徳島で新生活を楽しみながらも、お互いの職場で尽力していきたいと思えます。

私たち夫婦の共通の趣味として格闘技観戦や身体を鍛えることがあり、休日には2人でトレーニングジムに通っています。徳島に来てからは、釣りや八十八ヶ所巡りもするようになりました。2人の趣味を増やして楽しみたいと思います。